



報道機関 各位

令和4年2月22日

<タイトル>

農林水産省の「つなぐ棚田遺産」に
県内から唯一 大山千枚田、川代柿ノ木台棚田が選定

農林水産省は平成11年に全国の多面的な機能を有する全134地区の優良棚田を「日本の棚田百選」として認定しました。そこから20年以上が経過していることを顧み、より多くの棚田地域の振興に関する取組を積極的に評価し、棚田地域の活性化や棚田の有する多面的機能に対する一層の理解と協力を深めていくことを目的とした「つなぐ棚田遺産」の認定を実施しました。

令和3年11月～12月に全国で候補地域の推薦が始まり、令和4年2月15日、農林水産省ホームページで全国271地区の棚田の選定を発表しました。同年3月下旬に農林水産大臣名による認定証授与式が開催予定となっています。鴨川市からは大山千枚田、川代柿ノ木台棚田の2地域を推薦、両棚田が「つなぐ棚田遺産」として選定されました。関東圏内においては全7地区の棚田が選定を受けており、千葉県としては唯一となります。

両棚田とも令和元年8月に棚田地域の多面的な機能の維持増進、持続的発展を目的とし制定された「棚田地域振興法」に基づく「指定棚田地域」に選ばれており、全国的に農業者の高齢化、後継者不足などの問題で棚田保全の継続が危ぶまれている中、積極的な活動を続けています。

大山千枚田は平成9年に設立された特定非営利活動法人 大山千枚田保存会(会長 石田 三示氏)の下、棚田オーナー制度の実施による、コメづくり体験を通じた都市住民との農村交流活動、古民家レストランの経営による地場農産物の販売や地域の食文化の普及など様々な活動を行っており、農村環境の保全や地域の振興に貢献しています。上述した平成11年の「日本の棚田百選」にも選ばれている他、平成15年4月には「鴨川市棚田交流特区」の認定、平成16年には棚田の現代的な意義の解明、継承を目的とした団体である棚田学会が主催する「石井進記念棚田学会賞」の第1回目を受賞、令和3年10月には同じく農林水産省が主催する、農山漁村におけるむらづくりの優良事例への表彰を目的とした「豊かなむらづくり全国表彰事業」において農林水産大臣賞を受賞するなど、多くの功績を残しています。

川代柿ノ木台棚田は、地元川代集落(集落代表 庄司 祐輔氏)の農業者の下、棚田オーナー制度による田植え、稲刈り等の農業体験活動、収穫祭での地元食材を活かした料理や神楽の披露等による、地元農業、伝統文化の伝承を推進しています。令和3年8月には大山千枚田保存会と同じく棚田学会主催の「石井進記念棚田学会賞」の第17回受賞団体に選ばれています。

問い合わせ

鴨川市建設経済部農林水産課

農林振興係 担当:関川 征将

TEL:04-7093-7834 FAX:04-7093-7856